

令和2年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400631		
法人名	有限会社福祉の里		
事業所名	グループホーム福祉の里		
所在地	〒037-0205 青森県五所川原市金木町中柏木鎧石342番地2		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・温泉旅館を改修しており、居室が広く、居室からは四季折々の風景を楽しむことができ、静かで過ごしやすい環境にあります。                  ・浴室にはリフト付きシャワーキャリーを設置し、身体機能が重度化しても安心して入浴できます。                  ・ホールで過ごされる方が多く、テレビ・カラオケ・レクリエーション等を楽しみながら日々を送っています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階
訪問調査日	令和2年9月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>周囲を桜やナナカマド等の木々に囲まれ、季節の花を愛でたり、広葉樹が鮮やかに衣替えする自然の景観を楽しむ事が出来る環境にある。温泉を改修したグループホームで、廊下・居室は広くゆったりとしており、コロナ禍で面会が制限されるまでは、家族が食事を持参し日中共に寛いで過ごしていた。現状では難しいものの、これまでは、地区の様々な団体が訪問に訪れ、盛んに交流しており、地域のグループホームとして根付いている。職員間の協力体制も良好で、看護師も配置され医療面の管理も行き届いている。管理者を中心に、利用者の立場に立った介護を提供しており、家族の想いにも配慮し連絡も密に行われている。昨年9月に、経営拠点が変わり、職員配置も含め課題はあるものの、新体制の基盤を整え、利用者が安心・安全に暮らせる環境やサービスの提供に努めている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホール・事務室に掲示し、いつでも誰でも確認できるようにしている。毎日のミーティングやケア会議で個々の状況を常に報告し、話し合いながら家庭的で安心できる生活を送ることができるよう支援に努めている。	家庭的な雰囲気の中で、自分らしく誇りをもって生活出来る事を理念としており、管理者が日々職員に確認と助言を行い、ぶれないようにしている。これまで培った地域との繋がりも大切に理念に盛り込み実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は地域の商店に買い物に出たり、施設の祭りに地域の方を招待したりしていた。今年は感染症予防対策のため、地域との交流は出来ていない。今後の交流方法を考えていく。	これまで地域の様々な団体や近隣住民と培ってきた良好な関係性が、現在はコロナ禍で希薄になっているものの、今後、交流が可能になれば以前と同様に祭り事や訪問等、活発に相互交流して行く予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の認知症の理解や支援方法を継続していく。現在は感染症対策でおこなわれていないが、行事や慰問などの際に入所者との交流を図り、認知症に対する理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催時、運営やサービス、日々の活動状況報告・相談をして、意見やアドバイス・協力をいただきながら質の向上に努めている。	行政側から4月以降の会議は、集合を避け書面で行うよう指導があり、隔月で運営推進会議のメンバーに事業報告等郵送している。書面で意見を頂き、グループホーム側からの回答を載せた報告も再度郵送し協力体制を確保している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、窓口や電話でいつでも相談・助言を頂くことができる。また、生活保護受給者についても担当職員の訪問や電話連絡を取り合っている。	昨年9月に運営拠点が変更されたときは、親身になって相談に乗ってくれたり助言や励ましを頂き心強く感じている。現在も、提出書類の確認等に真摯に対応していただき、良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化対策についての指針を作成し、運営推進会議のメンバーの内、GH職員で職員会議を活用して委員会を開催している。玄関の施錠は夜間だけとし、日中はしていない。	指針を整備し、職員会議の中で内部研修を行い、法整備の根拠を含め、拘束の該当事項や弊害等について学習し、拘束は行われていない。又、温泉旅館時に使用していたベットも活用しているが、それについては、市の職員に確認してもらい作りは拘束に当たらないと判断いただいている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待の5つの定義」身体的虐待、介護・世話の放棄・放任、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待を念頭に、職員間で振り返る機会を作り、気づきあえるようにすることが課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでも活用している方がおり、内外の研修を通じて理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人や家族の思いを確認し、不安や疑問点を聴きながら重要事項説明書等の説明をし、理解・納得をしていただいて同意を得ている。追加や変更があれば契約時同様に同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の声に耳を傾け、家族の面会時や電話で近況報告をしている。利用者や家族がなんでも話せる雰囲気作りにも努めている。	入居時に契約書を以って、意見や要望等はグループホーム・行政・国保連が窓口になっている事を説明している。現在は、グループホーム側からの電話連絡で希望を聞き取る事が主になっており、概ね個々の生活に対する希望が多く、早い段階で対応出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議に代表者が参加して意見交換をしている。	管理者は日頃から職員が意見を出し易い環境を意識しており、出された内容については優先順位を考え現場に取り入れている。水分補給の選択肢を増やす目的で自販機を設置したり、コロナ対策で瞬時測定体温計を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望に添えるよう、勤務体制に無理のないよう配慮し、職場環境の整備に努めているが、現在は職員不足により、勤務に負担がかかる場合がある。また、資格取得への援助体制が求められる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修参加の機会をつくる様にしている。研修参加後に復命書を提出し、他の職員の内部研修として研修内容の報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の研修に参加して、交流の機会を得ている。できることからサービスの質の向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人の思いを確認し、安心した生活を送ることができるように、入居前からの情報を本人や家族より得て、困っていること、不安なこと、今後についてなどよく話を聴き、全職員が情報を共有し、本人の安心確保と信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望、今後について、よく話を聴いて要望に近づけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどのような支援を必要としているのか良く話し合い、必要に応じて関係機関と連携を図り、柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のさまざまな思いを受け止めながら、少しずつ信頼関係を築いて理解するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人に対する思いを受け止め、気軽に何でも話せる環境づくりに努めている。また、在宅での生活習慣等やホームでの生活状況等連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策のため、限られた家族とのやりとりが中心になり申し訳なく思っている。	現在は受診のみが外出の機会となっているものの、希望があれば家族との外出や、入居前に利用していた美容院の利用も支援したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や関わりがスムーズにいくよう職員が中に加わったり、ホールや食堂での座る場所等を考慮し孤立せず楽しく生活できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院でサービス終了になっても病院と情報交換したり、継続的な支援が必要なケースについては、病院に伺ったり、本人・家族の相談にいつでも、応じることができるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を意識することが現在の課題である。できるだけ入所前の生活習慣が継続できるように家族から情報を聴き、本人の意向を尊重し、希望に添えるよう努めている。	入居期間が長い利用者が多く、日々生活を共にする事で、言葉や動きから何を希望しているのか、これから何をしようとしているのかある程度予測出来る関係で、思いに添った対応をしている。機会を捉えて家族から聞き取りし、対応に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・担当の介護支援専門員・主治医から情報収集し、一人一人の全体像をアセスメントする為の基本情報を得ながら全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有し、一日の過ごし方、心身状況・残存機能等を把握し、一人ひとりにあった生活リズムに近づけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を利用者、家族、看護師、職員等でカンファレンスし、それを元にサービス計画作成し、同意を得ながら支援している。支援結果をモニタリング、評価をし、見直しが必要な場合は、再度アセスメントし、話し合いを持ち、サービス計画を変更している。	センター方式のアセスメントを活用し、事前に本人と家族からの意見を吸い上げ、担当会議を行い、要望を取り入れた個別計画を立案し、日々の介護で実践している。6ヶ月毎にモニタリングが行われ、本人の状態に即した計画が実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の「介護・看護記録」に毎日の状況や支援経過を記載している。気づきや変化についてはミーティングや申し送りノートで情報を共有している。また、必要に応じて家族への連絡・受診等を行いケア計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染症対策が優先となり、外出などに対応できない部分あり、今後の課題の一つである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の祭りのボランティア・避難訓練の消防等の機関と協力を得られていた。感染症対策もあり、現在は最小限の地域資源の利用となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との連携、在宅の時からのかかりつけ医継続をしている。本人の負担を少なくするため代理受診、状態変化の時の早期受診、緊急時対応等適切な医療を受けられるよう本人及び家族・かかりつけ医等と相談しながら行っている。	かかりつけ医の受診を支援しており、受診はグループホーム車輦で看護師が付き添い実施され、結果については毎回家族に報告し情報は共有され、安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間連絡が取れる医療連携体制ができている。介護職員は状態に変化があった場合、いつでも相談できる状態にあり早期受診対応や適切な医療を受ける事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	感染症対策もあり、入院時は医療機関の指示に従っている。退院時は医療機関の地域連携室と連携しながら、スムーズな施設復帰を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に看取りについての事前確認をしている。重度化した場合や終末期のあり方については、本人、家族、かかりつけ医と看護師が早い段階から、話し合いを持つようにしている。その後も必要に応じて関係者、職員と共に情報を共有し合い支援に取り組んでいる。	看取り指針が整備され、年1回家族の意向を確認し、看取りの契約書を取り交わし、家族の希望に応じ点滴や酸素吸入の対応を行っている。職員の不安を少なくする為、看取り教育も繰り返し行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在は一部の職員が応急手当、急変の初期対応の習熟は不十分な状況。しかし、24時間看護師と連絡が取れる状況、管理者に相談できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に年2回昼夜の防災訓練を行っている。また、自家発電機の備えがない為、早急な設置が求められる。	年2回火災を想定し避難訓練を行っている。昨までは消防署の立ち合いがあったものの、今年は、コロナの影響でグループホーム独自で行っており、今月中に実施予定で計画されている。自家発電についても、今月中に納品予定となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務上知り得たプライバシーや守秘義務について、職員の雇用時に指導をしている。また介助時の人格の尊重や職員間の会話なども意識付けが必要と感じている。	職員採用時に文書を以って守秘義務について説明し、署名捺印の上勤務に就いている。日常の各場面で不適切な言動が無いよう、職員同士が互いに注意し合いプライバシー保護の意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で信頼関係を築きながら、ゆっくり話を聞いたり、高圧的な態度にならないように心がけている。また、自己決定できる環境・雰囲気作りが課題である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで過ごすことができるよう、起床・就寝・朝食はできる限りその人の時間にあわせる等考慮している。またカラオケ等希望に応じて周りの方々に考慮しながら自由に楽しんでいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度地域の理容院の方が出向いに来て、それぞれの希望を聞きながら理髪をしてきている。日常では愛着のある衣類を身につけてもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔の味付けや調理法をききながら作ったり、旬のものを取り入れるように努め、家族等から野菜や果物等を頂いた時は一品追加して職員と一緒に食事をとっている。現在は感染症対策のため、片付け作業などは遠慮していただいている。	利用者や家族の希望を取り入れ、職員がメニューを作成し、法人本部の栄養士がカロリー計算を行い、栄養量も確保されている。現在、下ごしらえの手伝いは控えて頂いているが、自主的に食器拭きを行う利用者も居り、調理のアドバイスも受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500kcal前後になるような献立になっている。入居前からの生活習慣も考慮しながら、食べたいものを聞いて食べてもらうなど、状態に応じて対応している。食事の摂取量は生活状況記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし、介助・見守りをしながら義歯洗浄と、うがいをしている。夕食後は洗浄液につけて清潔保持に努めている。うがいの出来ない方には飲水で残渣がない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位の出来る方には出来るだけトイレでの排泄を勧めている。訴えのできない方には時間を決めて介助をしている。排泄表に全員の排泄を記録し回数を確認している。	個々の排泄パターンの把握と、日常の動きから排泄意を察知し、トイレでの排泄に繋げている。確認漏れがないように対応した職員が必ずチェックする体制で、排便に関しては看護師と連携し下剤の調整を行う等対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	排泄の記録を見て排泄状況を把握し、食事の摂取量を観察しながら水分補給や内服薬服用等の指示が看護師よりあり、便通調整をしている。腹部膨満感の訴えがあるときは浣腸や摘便を看護師が行う場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的に入浴週2回(月金)・足浴週1回(水)。出来ないときは清拭などで対応している。キャリーチェアの利用で脚力が不十分な方も浴槽に入ることが出来ている。	本人の希望に添い、順番や時間を変更したり、拒否への対応も柔軟に行い、週2回の入浴を確保している。立位の難しい利用者が多くなり、殆どの方が入浴専用のチェアを利用し安全に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩をしたり、レクリエーションに参加していただき日中の活動を多くしている。落ち着きのない時は、ゆっくり話を聴いたり、一緒にテレビを見たり安心できる雰囲気作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は看護師任せとなっており、職員全員が内服内容を周知できていない。今後の課題である。個別に内服薬を分け服用時に確認し、間違いのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは希望を聞きながら、カラオケやボール遊び、輪投げ、DVD(昔話・童謡)等を楽しんでいる。感染症対策で外出は制限されているが、飲料の自動販売機で好きな飲み物を選んでもらうこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症対策が優先となり、外出などに対応できない部分あり、今後の課題の一つである。屋外散歩などできることをしていく。	外出は制限されているものの、敷地内が広い事を利用し、天候に合わせて内部での散策を実施している。敷地を囲むように桜や松、さるすべり、もみの木、ナナカマド等が見事な枝ぶりを見せてくれ、自然の空気に触れながら外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染症対策でお金を使用する機会が減っているが、自動販売機の利用などを時々行っている。お金の管理ができなくなっているため、お小遣いは家族の希望もあり、施設で管理し同意を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがある時は、その時ご本人、ご家族の状況に応じて電話を掛け会話をしている。家族から電話があった時は職員が付き添い、不十分でも電話口に出て頂いた後、職員が状況報告をするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から四季折々の田園風景等を楽しんだり、玄関・ホール等に季節の花を生けたり、観葉植物・鉢植えを置いている。廊下は行事等の写真や装飾で親しみのある空間作りを工夫している。夏はクーラー、冬は暖房・加湿器で温度・湿度調整し、テレビの音量、職員の話し方に気をつけている。	リビングの窓から津軽富士が臨め、モーニングケアの前に利用者皆で眺める事が習慣になっている。観葉植物や鉢植えを置き、水やりを担当してくれる利用者も居り、共に成長を確認する等会話の糸口になっている。日中は殆どの利用者がリビングのソファでゆったりと午睡を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室でゆっくり過ごせるようになっている。他、ホールのソファに座り、他利用者同士自由に談話したり、テレビ、DVD(昔話・童謡)をみたり、カラオケ・輪投げ・さかな釣り等のレクリエーションを毎日楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具や、寝具を持ってきていただき、テレビを持参して楽しんでいる人もいる。感染症が流行する以前は、居室で家族で一日中過ごす方もいた。	居室は広く、テレビや冷蔵庫、ソファ、絨毯等、愛用の物の持ち込みが多く、それぞれに暮らしやすい空間になっている。家族の写真を飾り、繋がりを大切にしている利用者も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に表札代わりに名前を掲示している。自室が分らなくなる方には職員が付き添う、誘導するなどの対応をしている。		